

らしい



あなたらしく
生きられる
社会を目指して

ゆう〜



さくら市男女共同参画推進委員会が市長へ「提言書」を提出しました!
花塚市長からは「この提言を市政に反映させていきたい。」と力強い
言葉をいただきました。

3つの提言

- ・ 女性の視点を取り入れた防災のしくみ
- ・ 女性と子どもに配慮した防災備蓄品の拡充
- ・ 自治会や自主防災組織、消防団における女性の役割の見直し

“もしも”を想像して、“いつも”の暮らしに取り入れる

災害への備えの基本は『自分の命を守ること』。まずはここから始まります。

『避難袋の準備』や『備蓄の購入』ももちろん大切。でも何か起きたとき、自分の命を守れなければ、避難袋を背負って安全なところへ避難したり、備蓄を使って避難生活を送ったりすることはできません。身を挺してお子さんの命を守っても、あなたが命を落としてしまったら、お子さんはそのあと無事でいられるでしょうか？突然の災害の代表格は、地震です。まずは地震が起きたとき、ちゃんと自分と家族の命を守れること、確認しておきましょう。

布団に横になり、地震が来た前提で周りを見回してみましょ。寝ている間に地震が起きたとき、あなたや家族の上に落ちてくるモノ、倒れてくるモノはないですか？

次は部屋から出られるかどうか確認しましょう。ドアまで安全にたどり着けますか？ドアをふさいでしまうものはありますか？眼鏡は枕元に置いておきたいし、夜、停電の時は明かりがないと怖いですね。

そして通路。避難の際、通路に邪魔になるモノを置いていませんか？通路わきの棚からモノが飛び出してきませんか？飾ってある額や写真立てが落ちてきませんか？そう考えると、床はモノだらけかもしれません。足を守るアイテムの準備が必要です。

自分と家族の命を守るためにやっていただきたいのは、『想像すること』。地球上から災害をなくすことはできないけれど、“もしも”を想像すれば、被害を最小限に抑えるためのヒントが見つかるはず。そして“もしも”に必要な対策をすることは、“もしも”の備えだけでなく“いつも”の生活にも役立ちます。寝室に余計なものがなくなればすっきり寝られるし、通路に邪魔なものなくなれば普段から通りやすくなりますよね。懐中電灯やランタンは夜中にトイレに起きたときにも使えますし、厳選して飾れば掃除も楽ちん！まずはあなたの日常について、“もしも”を想像してみてくださいね。



堀中里香(ほりなか りか) / 整理収納コンサルタント、防災備蓄収納マスタープランナー、防災士。「あなたのいえのかたづけこびと、そだてませんか」をモットーに、日常は整理収納、非常時は防災備蓄で、安全で安心な暮らしをサポートする。防災を考慮した整理収納サポートや、オンラインの整理収納×防災備蓄セミナーが好評。整理を習慣づける週一オンライン部活動『みんなでおかたづけクラブ』も行っている。NHKひるまえほっと出演。ブログ『かたづけこびとのみつけかた』 <https://ameblo.jp/karikanariho/>

(右のQRコードからもアクセスできます。)



堀中先生には令和4年1月29日に氏家公民館で、「女性と子どもに寄り添った防災講座」にて講演いただく予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で講演が中止となってしまったため、本号に寄稿いただきました。講演については、次回以降にご期待ください。

編集後記

若者の間で流行しているSNSから広まった、「助けて」を伝えるハンドサインがあるのをご存じですか？片手でいへ、声を出さず、加害者に気付かれにくい形で助けを求める方法として世界に広まっています。

- ・片手の手のひらを、人に向ける
- ・親指を手のひらに押し込む
- ・残りの四本を親指の上に折りたたむ

殴ったり蹴ったりするなどの暴力だけではなく、精神的・経済的・性的な暴力も、DVです。(米山百桃 著)



さくら市 男女共同参画推進委員募集中

私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか？イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう！老若男女問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください！

◆編集：さくら市男女共同参画推進委員会

◆発行：さくら市総合政策部総合政策課

〒329-1392 さくら市氏家2771番地

TEL:028-681-1113 FAX:028-682-0360

E-mail: sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp

(右のQRコードからもアクセスできます。)

